

## 第5回 運営会議 議事録

日時：平成22年2月3日

場所：大阪府庁新別館（北）5F 会議室

出席委員（敬称省略）

- 増田 昇（大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 教授）
- 前中 久行（大阪府立大学生命環境科学部緑地環境科学科教授）
- 下村 泰彦（大阪府立大学大学院生命環境科学研究科 准教授）
- 嘉名 光市（大阪市立大学大学院工学研究科 准教授）
- 清野 博子（元読売新聞編集委員）
- 弘本 由香里（大阪ガス株式会社 エネルギー・文化研究所（CEL）客員研究員）
- 永田 宏和（NPO 法人プラス・アーツ代表）
- 吉野 勝（泉佐野観光ボランティア協会）
- 西台 幸子（うみべの森を育てる会）
- 松下 義彦（泉佐野市 都市整備部長）

おもな意見

議案1：ハード整備について

<池の転落柵>

- ・一般の人が立ち入らない場合と立ち入る場合の議論は異なる。こういう話題は安全性から整備が重くなってしまうが、軽く整備したほうがよい箇所もあるだろう。基本的には自然に馴染むような形態が望ましいと思える。
- ・向井池と谷口池の断面形状は異なる。谷口池のほうが急勾配であり、転落防止に配慮しなければならない。しかし、向井池は谷口池に比べて緩斜面であり、転落の危険を考慮せずともよいのではないか。
- ・また、安全性だけではなく、下から見上げたときの景観を考慮しながら考えたい。
- ・堤体の場所は目立つ場所であるので、柵が目立たないような配慮が必要である。
- ・府民にどれだけ水に近づいてもらうかを考えなければならない。階段でアプローチできる親水性の高いものにすべきなのか、それとも単に見るだけでとどめておき視覚的な親水性を確保すべきなのかは検討が必要である。
- ・アプローチしやすくするのであれば、一部B案のようなものも出てくるだろう。ただし、コストがかかるので、全部がB案になるのではないと思う。
- ・堤体上から池にアクセスするには水面上にデッキなどの構造物が必要であり難しい。対岸の林内からのアクセスがあって、そこで親水性を確保することができる。
- ・水面利用の活動がなければ、景観に配慮したしつらえにすべきだろう。
- ・環境学習の要素としてこの池を活用していく話が後々出てくると思う。すべては難しいが、一部だけでもアプローチできるようにしておくべきではないか。
- ・ため池は農業に活用しているのであれば、そのことを含めて学べる場所としたい。
- ・この公園では、地域の習慣を学べる場としたい。学びの場として活用するためには、全部を階段護岸にするのではなく、一部水に触れる場所があってもよい。

- ・水路の周辺の部分に利用の可能性があるので勾配から考えたい。草の上に座る、腰掛けてお弁当を食べる等、場所に合った使い方が考えられるのではないかな。
- ・向井池の堤体は、この公園で一番のビューポイントである。見晴らしがよい利点を活かした利活用を考えておきたい。
- ・他の事例で、ゴロタ石を敷き詰めて、水深を浅くして水に近づきやすく施工している事例がある。
- ・谷口池の南側は緩傾斜になっているように感じる。西や北の急傾斜は転落防止の柵は必要になってくるかもしれないが、南側は柵をせずに親水性の高い場所をつくり出せるのではないかな。
- ・向井池は池の堤体部に植栽をする際に石を貼ることが多いが、そうすると景観を壊してしまう。
- ・堤体の斜面に樹木を植える際にも、水利との協議が必要だろう。
- ・向井池の堤体は草地でささゆりなどの生息地であることも考えておきたい。

#### 委員長まとめ

- ・堤体は触れば触るほど地面が固くなって、現状の草地で構成された柔らかい景観が乱れてくる。また植生も乱れてしまう。現状を活かした形態を考えていきたい。
- ・向井池は堤体部分に灌木を配しているが、この灌木に意味があるのかを下から見上げた景観や生態系を踏まえて考えてほしい。
- ・堤体の天場のところが絶好のビュースポットとなっている。その見晴らしの良さを崩さないでほしい。
- ・水面側の方は環境学習ができるように、一部水と触れあえる場所があってもよいという意見があった。
- ・向井池の転落防止柵は、柔らかく隠したいという意見であるため、望むならB案、D案あたりだろう。
- ・谷口池は急勾配であるため、A案でもよいという意見があった。ただし、柵と地面との設置点にコンクリートがむき出しにならないよう、柔らかく施工をしたい。
- ・池の状況に応じて柵を議論すべきで、すべての池に対し、この方針で考えていくべきではない。
- ・谷口池の南側は将来、湿地としての可能性を持っているので、コラボレーション区域のところは今後パーククラブと議論しながら進めていきたい。

#### <天神川沿いの駐車場>

- ・印象としては、2通りある。立派な市道になったというプラスの印象と広幅員の道路ができてしまったというマイナスの印象である。今後、さらに駐車場からのアクセスとしてバリアフリー対応の斜路をつくるとなると河畔林が残らなくなってしまう。
- ・天神川沿いの駐車場は臨時駐車場ということにしておいて、必ずしも公園内すべての区域の利便性を高める方向に進めなくてもよいのではないかな。

#### <PR イベント>

- ・イベントの位置づけを話し合いながらもっと明確にすべきではないかな。
- ・広く呼ぶというよりは、もっと内部向けで仲間意識を高め、一体感を高めることになるのではないかな。
- ・その部分が決めれば、自ずと募集人数、活動エリアが決まってくるだろう。
- ・資料をみているとマニュアル的な進め方を感じる。まずは、パークレンジャー自身が人に公園の魅力を来園者に伝えていけるよう学び、公園のアイデンティティや価値を共有していくことが第一の目的ではないかな。イベントを通じてパークレンジャーの方々にそれを見つけていただきたい。
- ・イベントは外にPRできたということより、内部の意識が高まることを目的とすべき。

- ・資料説明の中で、パークレンジャーは竹が資源と理解したが、その他にも資源はたくさんあるといったことに共感する。先ほどの谷池の話も、いろんな池がつながっていて、それぞれに使い方のルールが決まっていたとの話を聞いた。他にもこの土地には地形の特性や習慣やルール（自然とのつきあい方）が眠っているはずである。例えば、昔の里山にはタケノコの使い方のルールがあったはずである。そのルールを掘り起こしに使っていったらと思う。
- ・地域に棚田やため池とのつきあい方や歴史的資源、眺望等ここにしかない資源を発掘しながらストーリーを組み立てていければよいのではないかな。
- ・イベントを通じて、泉佐野丘陵緑地を誇れるようなものにすべき。
- ・パークレンジャーは講座を受講しても、この地のことをすべて知ることはできない。このイベントを通じて、公園のことをより深く知っていただくような機会となればよいのではないかな。
- ・パークレンジャーの講座の中での取り組みも紹介しながらイベントを実施した方がよいのではないかな。
- ・パークレンジャーの団結を図ることをメインに、地域の特徴を生かしたイベントをすべきではないかなと思う。

#### 委員長まとめ

- ・これまでは自然とうまくつきあいながら、タケノコを採ってきたのだと思う。そのあたりのことも、このイベントを通じて学んでいけたらと思う。
- ・今回のイベントは、パークレンジャー自身の学びの場であり、パークレンジャーと行政がパートナーシップを結んでいくために、お互いが学びあえる場としたい。大阪府もパークレンジャーと一緒に模索しながら学んでいくことが必要である。
- ・そう考えるとたくさんの人を呼ぶのではなく、パークレンジャーや大阪府の職員と同じくらいの人数を呼んで無理のない範囲で経験してみる方向でないかなと思う。
- ・何より準備段階が重要。相手に知っていることを伝達しようとする、当日に向けて繰り返し練習を行う必要があるのではないかな。
- ・交流会が中心ではなく、一度人を呼んで、おもてなしをすることが重要である。呼んだ人に「公園をどのように伝えていけばよいのか」ということを学んでいく場としてイベントを活用していくべきである。
- ・これまでの公園のPRは施設のPRであったが、この公園では人の活動を全面に押し出してPRしていくべきである。
- ・運営会議は府民のアイデアを審査する期間ではない。助言することが大きな目的であるためそのあたりを踏まえた上で進めてもらえたらと思う。

#### <休憩所について>

- ・前回の運営会議の議論を受けて、位置が変わった。しかし、谷口池の南側がすっきりと整備するのであれば、向きは池の方向がよいのではないかな。
- ・倉庫は拡張性が高いものにすべき。また、細かな話になるが、作業の流れを踏まえてごみや水道の位置も考えていく必要がある。
- ・活動の流れを想定しながら舗装材、囲炉裏の位置など検討いただきたい。
- ・今示している倉庫は拡張性がないように見える。この土地の風景は農作業小屋の脇に倉庫がポツポツとでてきている風景がよいかもしれない。そのあたりも含めて考えていただきたい。